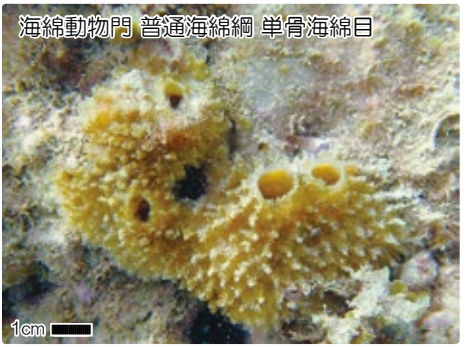
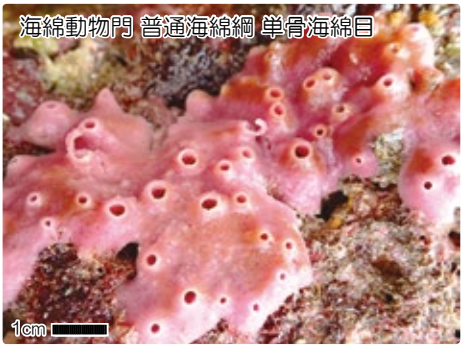
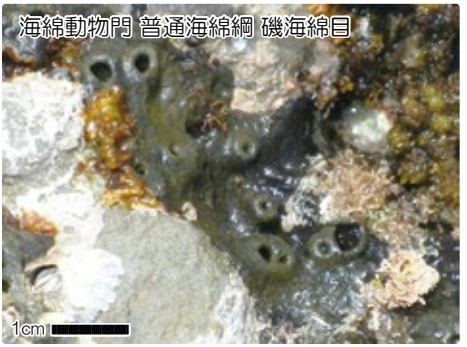
白浜の海岸生物



ザラカイメン *Callyspongia confoederata*
体は黄土色で、表面は多数の小突起で覆われる。写真のものは若い個体で、成長すると大孔（出水孔）を中心に上方へ長く伸びる。潮下帯の岩上に固着するが、死ぬと海岸に漂着。



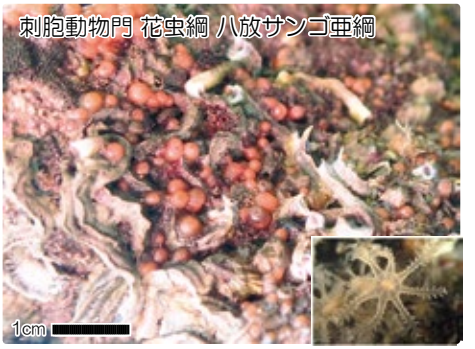
ムラサキカイメン *Haliclona cinerea*
体は不規則な塊状で、表面はなめらか。紫色の体色が特徴。肉眼で見える多数の穴は大孔。潮間帯中～下部の潮だまりや潮下帯の岩上に固着。



クロイソカイメン *Halichondria okadai*
体は不規則な塊状で、表面はなめらか。黒い体色が特徴。肉眼で見えるいくつかの穴は大孔。潮間帯中～下部の潮だまりや潮下帯の岩上に固着。

ダイダイイソカイメン *Hymeniacidon sinapium*
体は不規則な塊状で、橙（だいだい）色の体色が特徴。肉眼で見えるいくつかの穴は大孔で、田辺湾口ではこの突出が小さい。潮間帯中～下部の潮だまりや潮下帯の岩上に固着。

カブトクラゲ *Bolinopsis mikado*
袖状の突起をもち、微小な生物を包み込んで捕食。光を反射する８列の繊毛帯を動かして泳ぐ。刺胞動物ではないので刺さない。春から夏にかけて多く、潮だまりにもみられる。



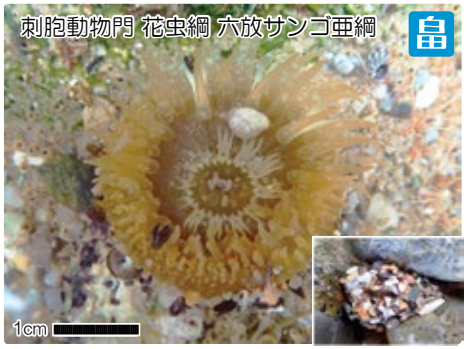
コマイハナゴケ *Cervera komaii*
干出時は薄桃色～ベージュ色の団子状になるが、水中では８本の羽状触手が開く（右下）。ポリプ同士は走根でつながる。骨片はない。外海に面した潮間帯下部の岩陰に固着。

ユビノウトサカ *Cladiella digitulata*
群体は骨格がなく柔らかい。指状突起の上に褐色のポリプが密生。共生藻をもち、光合成を行う。外海に面した潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上に固着。

オオトゲトサカ *Dendronephthya gigantea*
群体は赤いブロッコリー状。とげ状の白い骨片が目立つが、骨格はなく体は柔らかい。外海に面した潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩陰に固着。

イソバナ *Melithaea flabellifera*
群体は扇状で鮮やかな赤や橙色。多数の枝は網目状になる。死ぬと海岸に漂着するが、骨軸がもろくすぐに崩れる。外海に面した潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩陰に固着。

ウメボシイソギンチャク *Actinia equina*
干出時は縮んで梅干しのようになるが、水中では赤い触手を開く（右下）。口から自身のクローンである小さなイソギンチャクを吐き出すことがある。潮間帯中～下部の岩陰。

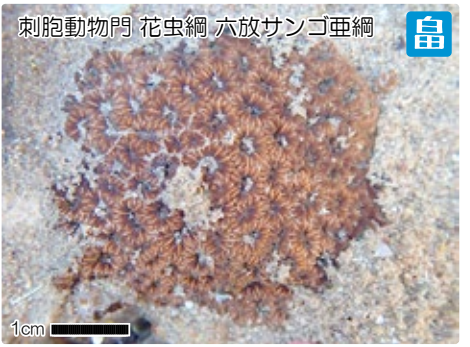


ヨロイイソギンチャク *Anthopleura uchidai*
体壁に吸着イボがあり、砂粒や貝殻を付着させる。水中では触手が開くが、干出時は縮めるため体壁の付着物で本体が見えなくなる（右下）。口の周辺が褐色。潮間帯中～下部の岩の隙間。

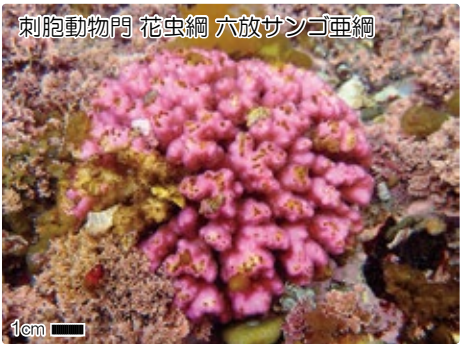
ベリルイソギンチャク *Anthopleura inornata*
ヨロイイソギンチャク同様に体壁に吸着イボをもつが、吸着力が弱く物をほとんどつけない。体壁を指で触るとわずかに吸着。口の周辺が赤い。潮間帯中～下部の岩の隙間。

白浜の海岸生物

タテジマイソギンチャク *Haliplanella lineata*
特徴的な体壁の縦縞（たてじま）は黄色、オレンジ色、水色などがあり、縞の全くない個体もみられる。潮間帯中～下部の岩上。内湾など淡水の影響を受けるところに多い。



キクメイシモドキ *Oulastrea crispata*
群体は褐色。骨格が黒っぽいため海岸に漂着したものでも本種とわかる。褐虫藻を有し、光合成を行う。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯に固着し、やや泥っぽい場所でもみられる。



ハナヤサイサンゴ *Pocillopora damicornis*
群体は褐色～ピンク色で、枝は密生する。褐虫藻を有し、光合成を行う。外海に面した潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上に固着。

イボヤギ *Tubastraea coccinea*
群体は塊状で濃い橙色～黄色。水中では黄色い触手が開く（右下）。褐虫藻を有さないため、日陰でも生息できる。外海に面した潮間帯下部の岩陰に固着。

ハネウミヒドラ *Pennaria disticha*
群体は羽根状で、枝の左右に小枝を互生。枝は黒く、ポリプの露出部は白い。繁殖期にポリプはクラゲをつくる（右下）。刺されると痛がゆい。夏の外海に面した潮だまりや潮下帯。

ギンカクラゲ *Porpita pacifica*
青い触手をもつ円盤状の気泡体で、海面に浮遊する。繁殖期には、クラゲを放出し（右下）、卵や精子をつくる。共生藻をもち、光合成を行う。黒潮と夏の南風にのって海岸に漂着。

カツオノカンムリ *Velella velella*
青い触手と帆をもつ楕円（だえん）盤状の気泡体で、海面に浮遊する。繁殖期には、クラゲを放出して卵や精子をつくる。共生藻をもち、光合成を行う。黒潮と夏の南風にのって海岸に漂着。

シロガヤ *Aglaophenia whiteleggei*
ポリプ群体は白い羽根状で、主枝の左右に小枝を互生する。刺されると痛みとかゆみが長引く。冬～春の外海に面した潮間帯下部の潮だまりや潮下帯。

ハナガサクラゲ *Olindias formosa*
傘の表面に鮮やかな桃色、黄緑、黒の触手、傘縁に多数の茶色い触手をもつ。刺されると痛みとかゆみが長引く。潮下帯の海藻などに付着するが、初夏に繁殖の終わった個体が海岸に漂着。

カツオノエボシ *Physalia physalis*
海面上に浮く袋状の気泡体から長く青い触手が生じる。刺胞の毒針は長く（右下）、刺されると激痛があり、吐き気や呼吸麻痺（まひ）を伴うことがある。黒潮と夏の南風にのって海岸に漂着。

ヒメアンドンクラゲ *Copula sivickisi*
主に夏にみられ、昼は潮下帯の海藻などに傘頂の吸盤で付着して休んでいるが、夜は水中に泳ぎだし餌を採る。走光性があり、雄が雌に精子が入った精包を手渡す配偶行動がみられる。

イラモ *Nausithoe racemosa*
群体は褐色の海藻様で、ラッパ状のポリプを多数生じる。短命なクラゲを放出。刺されると腫れあがり、痛みとかゆみが長引く。外海に面した潮下帯の岩上に固着するが、潮間帯にも漂着する。

白浜の海岸生物

ミズクラゲ *Aurelia* sp. 1
傘は白く半透明で、中心にある４つの馬蹄（ばてい）形の生殖巣が特徴的。傘の縁には多くの小さな触手をもつ。冬に田辺湾内で稚クラゲ（右下）が生まれ、春から夏にかけて成長し繁殖する。

アカクラゲ *Chrysaora pacifica*
傘の表面に放射状の赤い筋をもち、傘の縁から触手が長く伸びる。刺されると痛みとかゆみが長引く。冬から春にかけて成長し、初夏に繁殖の終わった個体が海岸に漂着。

タコクラゲ *Mastigias papua*
棒状の付属器を８本もち、傘の表面に白い斑点がある。黄褐色に見えるのは共生藻で、光合成を行う。夏に稚クラゲが生まれ、秋まで成長して繁殖。田辺湾では内湾に多い。

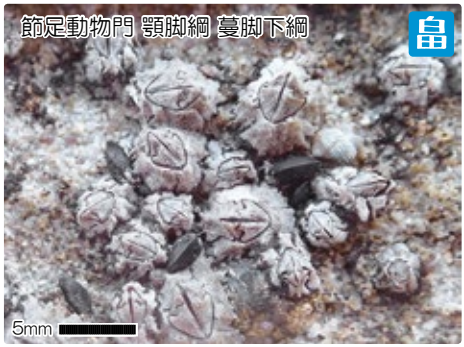
ウスヒラムシ *Notoplana humilis*
粘液に覆われた体は細長く、灰褐色のものが多い。一対の触角をもつ。腹側中心に口があり、樹状の消化管が背側から透けて見える。潮間帯中～下部の転石裏に付着。

ツノヒラムシ *Planocera reticulata*
粘液に覆われた体は幅広く、薄茶色の地に濃色と白の細かい模様がある。一対の触角をもつ。腹側中心に口があり、消化管が樹状に広がる。潮間帯中～下部の転石裏に付着。

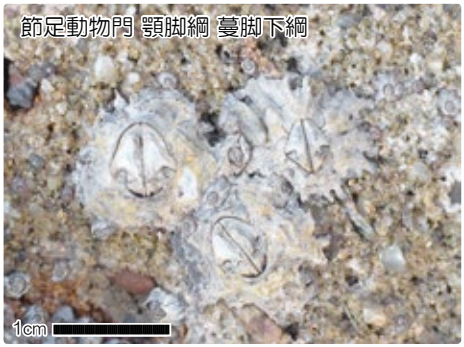
ミサキヒモムシ *Notospermus geniculatus*
黒褐色の体表に白い環状の模様をもつ。粘液に覆われた紐状の体には節や脚、剛毛などはない。長い吻を伸ばして他の生物を捕食。岩の隙間や転石下。

フタツメイソウミグモ *Ammothella biunguiculata*
4 対の長い歩行肢をもち、その先にある２本の爪が和名の由来。潮間帯中～下部の転石裏にしばしば数個体が集まってはりつく。

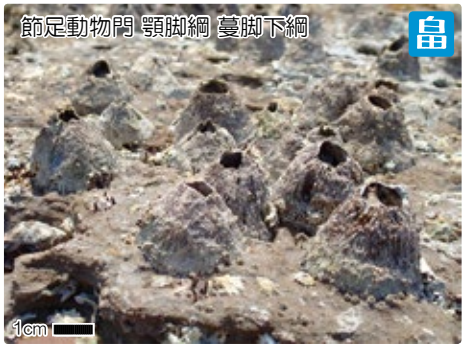
カメノテ *Capitulum mitella*
体は白い殻で覆われた頭状部と黄灰色の柄部からなる。高さは４cm に達する。水中では剛毛が生えた黒い蔓脚（まんきゃく）を動かして微小な生物を集める。潮間帯上部の岩の隙間などに群生。



イワフジツボ *Chthamalus challengeri*
殻は円錐（えんすい）形で、灰白色。殻の表面に肋（ろく）が縦に走るが、しばしば磨耗する。脚が出入りする殻の接合部が２回蛇行する。直径は通常１cm 以下。潮間帯上部の岩上に群生。



オオイワフジツボ *Hexechamaesipho pilsbryi*
殻は平たく、灰白色。脚が出入りする殻の接合部が４回蛇行する。直径は１cm を超える。外海に面した海岸で、イワフジツボよりもさらに高い潮間帯上部の岩上に群生。



クロフジツボ *Tetraclita japonica*
殻は円錐形～筒形で、黒灰色（湿らせるとわかる）。表面のきめが粗く、内部に多孔構造がある。直径は４cm に達する。波あたりの強い潮間帯の岩上に固着。

ミナミクロフジツボ *Tetraclita squamosa*
殻は浅い円錐形で、緑灰色（湿らせるとわかる）。表面のきめが細かく、内部に多孔構造がある。直径は４cm に達する。やや外海に面した潮間帯の岩上に固着。

白浜の海岸生物

タイワンクロフジツボ *Tetraclita formosana*
殻は円錐形～筒形で、赤灰色（湿らせるとわかる）。表面のきめが粗く、内部に多孔構造がある。直径は４cm に達する。最も外海に面した潮間帯の岩上に固着。

シロスジフジツボ *Fistulobalanus albicostatus*
殻は円錐形で、暗紫の地に顕著な白い数本の縦走肋をもつ。直径は２cm に達する。淡水の影響を受ける内湾の潮間帯中部の岩上や貝殻の上などに固着。

タテジマフジツボ *Amphibalanus amphitrite*
殻は円錐形で表面は滑らか。白地に青紫色の数本の縦縞模様をもち、直径は２cm に達する。内湾の潮間帯中部の岩上や、ブイなどの人工物に固着。

オオアカフジツボ *Megabalanus volcano*
殻は円錐形～筒形で、くすんだ赤紫色。下向きの小棘をもつ。直径４cm に達する。外海に面した潮間帯下部の岩上や、ブイなどの人工物上に固着。

フサゲモクズ *Hyale barbicornis*
全体的に丸まった体形。第２触角後縁部に毛が密生する。横向きで滑るように動くが、飛び跳ねたりもする。体長７mm程度。潮間帯中部から上部の転石下。

シリケンウミセミ *Dynoides dentisinus*
雄の背側後方に１本の角状突起があるが、雌にはない。潮間帯下部～潮下帯上部の海藻の根元、カイメンの孔、フジツボの死殻中に隠れる。幼若個体はカサガイ類やイボニシなどの下にみられる。

フナムシ *Ligia exotica*
体は流線型かつ扁平で７対の歩脚をもつ。長い触角や尾肢で地形を確認しながら逃避する。水中に逃げ込むことがあるが、長くとどまることはない。潮上帯から潮間帯中部の岩上。

フトユビシャコ *Gonodactylus chiragra*
色は変異が大きい。頑丈な捕脚でカニや貝の殻を割って捕食する。攻撃性が高く、素手で触ると危険。潮下帯のサンゴ群落や岩場の周辺にすむが、まれに潮間帯でも見つかる。

サラサエビ *Rhynchocinetes uritai*
体に赤い縞模様と白い斑点がある。脚は赤く、細く白い筋が入る。額角に関節があり、動かすことができる。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩陰。

アシナガスジエビ *Palaemon ortmanni*
ハサミ脚や歩脚がスジエビ類のなかでも長い。紫褐色の長い額角が目立つ。他のスジエビ類に比べて動きが速い。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩陰。

イソスジエビ *Palaemon pacificus*
腹部に黒褐色の縞模様、尾部に丸い黄色の斑紋がある。額角の上縁に 10 本以内の歯がある。外海に面した潮間帯下部の潮だまりなど。昼間は岩陰などに隠れる。

スジエビモドキ *Palaemon serrifer*
黒褐色の縞模様がイソスジエビに比べて細く少ない。額角の上縁に 10 ～ 12 本の歯がある。内湾の潮間帯下部の潮だまりに多い。

白浜の海岸生物

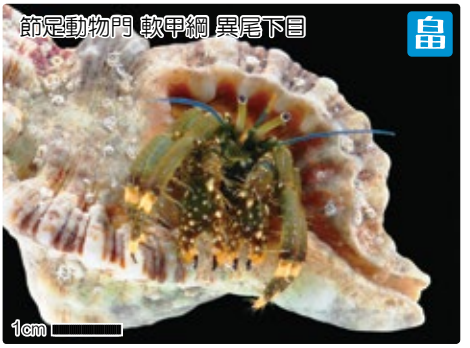
テッポウエビモドキ *Betaeus granulimanus*
体は濃緑で、ハサミ脚は顆粒（かりゅう）があり部分的に橙色になることがある。潮間帯下部の転石下。夜行性で、夜は潮だまりで採集できる。

アシナガモエビモドキ *Heptacarpus futilirostris*
雄の第３顎脚が長い（写真では左上に伸びた脚）。アシナガモエビと似るが、額角の下縁の歯が少ない（２～３本）。藻場に多く、潮間帯中～下部の潮だまりや潮下帯。

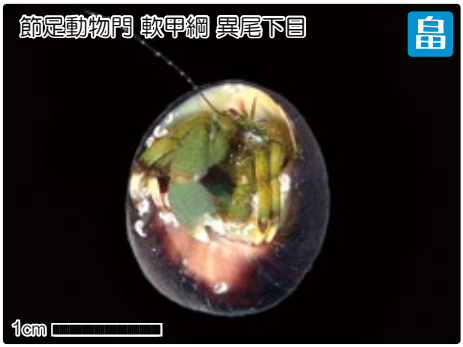
ハルマンスナモグリ *Nihonotrypaea harmandi*
ハサミ脚の大きさは左右で異なる。甲は半透明の乳白色で柔らかい。額角が鋭く突出しており、黒い眼が眼柄に対して大きい（右下）。外海よりの砂地に巣穴を掘る。

ニホンスナモグリ *Nihonotrypaea japonica*
ハサミ脚の大きさは左右で異なり、黒い眼が眼柄に対して小さくゴマ粒状（右下）。体色は通常乳白色（写真は固定標本）。内湾の砂地に巣穴を掘る。

バルスアナジャコ *Upogebia issaeffi*
アナジャコに似るが、ハサミ脚の可動指に短い線状の隆起が４本以上あり、不動指に歯状突起がある点で異なる（右下）。砂泥地の転石下。



イソヨコバサミ *Clibanarius virescens*
ハサミ脚は左右で同大。脚は全体的に暗緑色か暗青色で先端が黄色い。第２触角は青い個体が多い。外海に面した潮間帯中～下部の岩上や、潮だまり。



ホンヤドカリ *Pagurus filholi*
右のハサミ脚が大きい。体はオリーブ色で、脚の先端は白い。秋から春の繁殖期には雄が雌をつかんで歩き回る。潮間帯中～下部の岩上や、潮だまり。

ヤマトホンヤドカリ *Pagurus japonicus*
右のハサミ脚が大きい。ハサミ脚は薄茶色、歩脚は紅白の縞模様。磯のヤドカリの仲間では最大。外海に面した、潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の転石下。

ユビナガホンヤドカリ *Pagurus minutus*
右のハサミ脚が大きく、歩脚には黒い縞模様がある。歩脚の先端の節（指節）が長いことが和名の由来。内湾や河口など淡水の影響を受ける潮間帯の岩上。

クロシマホンヤドカリ *Pagurus nigrivittatus*
歩脚に２本の黒い縦縞があるのが特徴。第２触角は濃褐色で、白点が等間隔に入る。外海に面した潮間帯中～下部の潮だまり。

ムラサキオカヤドカリ *Coenobita purpureus*
体は紫～灰白色で眼柄は全体的に白い。雌が幼生を海に放出し、幼生は黒潮に乗って分散。海岸の石垣付近で稚ヤドカリがみられる。海岸付近で陸上生活をする。天然記念物。

イソカニダマシ *Petrolisthes japonicus*
カニのようだがヤドカリの仲間で、カニに比べて第２触角がとても長い。また、第４歩脚がきわめて小さく、歩脚は一見３対に見える。動きは素早い。潮間帯下部の転石下や岩の隙間。

白浜の海岸生物

キンセンガニ *Matuta victor*
丸みがある甲の横からトゲが生え、薄黄色の地に紫の斑点で覆われる。歩脚の先端は全てオール状。潮下帯の砂地に素早く潜る。擬死行動を取る。

イソクズガニ *Tiarinia cornigera*
額に切れ込みのある角があり、ハサミ脚は迷彩柄。全身を覆うマジックテープ状の毛で海藻やゴミを付着させて身を隠す。潮間帯中～下部の潮だまりや潮下帯の岩上。

コワタクズガニ *Micippa philyra*
イソクズガニに似るが、額の角が扁平で垂直に曲がる（右下）。体中が藻類などに覆われており見落としがち。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上。

ベニツケガニ *Thalamita pelsarti*
甲の前縁は鮮やかな赤色で、額に６本の丸みを帯びた歯がある。ガザミ類の中では、両眼の間はかなり広い。外海に面した潮間帯下部～潮下帯の岩陰。

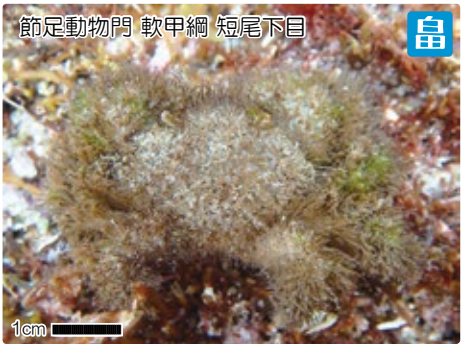
スベスベマンジュウガニ *Atergatis floridus*
甲は茶褐色に白いまだら模様で丸みを帯びる。触られると脚を折りたたみ、擬死行動を取る。毒があり食べられない。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の転石下。

オウギガニ *Leptodius exaratus*
甲は扇形で、紫褐色～黒褐色。ハサミの先端はＵ字型で濃色の模様がある（右下）。捕まえると足を折りたたんで擬死行動を取る。潮間帯の岩陰や転石下。

トゲオウギガニ *Pilodius nigrocrinitus*
全身に長い剛毛が生え、眼の後方の甲縁に４本のトゲ状の歯がある。ハサミ脚は黒みがかる。潮間帯の転石下や潮だまりの底石の隙間。

ヒヅメガニ *Etisus laevimanus*
眼の後方の甲縁に４つの歯があり（眼の直後を除く）、前２歯は鈍角、後ろの２歯は鋭角。ハサミ脚の先端は黒褐色で、ヒヅメ状。歩脚に毛が密生。外海に面した潮間帯の岩陰や転石下。

イボイワオウギガニ *Eriphia ferox*
甲は暗赤色で丸みを帯びる。眼は赤く、ハサミに棘のような顆粒があるのが特徴。潮間帯のカニの中では大型。外海に面した潮間帯上部の岩穴に隠れる。



ケブカガニ *Pilumnus vespertilio*
甲は横長で、全身が長い黄土色の毛に覆われる。ハサミの先端が黒い。近づくと動きを止めることが多く見落としがち。潮間帯の潮だまりや転石下など。

イワガニ *Pachygrapsus crassipes*
甲の表面が平滑で光沢があり、紫褐色の地に黄土色の横縞がある。眼の後方の甲縁に切れ込みが１つある。外海に面した潮間帯の岩陰やテトラポッド上。

イソガニ *Hemigrapsus sanguineus*
甲は黄緑の地に黒褐色の紋様があり、歩脚に同色の縞模様をもつ。成熟した雄のハサミは弾力のある丸い肉球をもつ。潮間帯の岩陰や転石下。

白浜の海岸生物

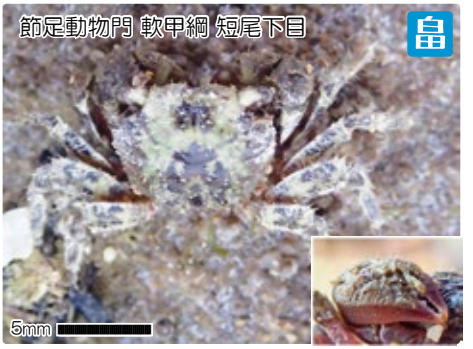
ケフサイソガニ *Hemigrapsus penicillatus*
ハサミ脚に毛の房があり、雄のハサミの外側の毛房が小さい。腹部に小さな黒い斑点をもつ（写真は雄の右側の背と腹）。河口域の岩陰や転石下。

タカノケフサイソガニ *Hemigrapsus takanoi*
ケフサイソガニによく似るが、雄のハサミの毛房が内外とも大きく、腹部に斑点がない点で異なる（写真は雄個体の右側の背と腹）。河口域の岩陰や転石下。

ヒライソガニ *Gaetice depressus*
イソガニに似るが、横から見ると甲の表面が平らで、狭い岩陰に入り込む。甲の色や模様は変異に富む。外海に面した潮間帯の岩陰や転石下。

ベンケイガニ *Sesarmops intermedius*
アカテガニに似るが、眼の後方の甲縁に切れ込みがあり、ハサミがザラつく。半陸生のカニで、護岸のない自然海岸の海岸林などにみられる。

カクベンケイガニ *Parasesarma pictum*
甲は正方形に近く、黄褐色の地に黒い斑紋がある。ハサミ脚は褐色がかり、先端は赤くならない。海岸に近い陸上（河口のヨシ原やコンクリート護岸など）。



ヒメベンケイガニ *Nanosesarma minutum*
額中央にくぼみと眼の後方の甲縁に１つの切れ込みがある。ハサミ脚に毛が密集して並ぶ（右下）。ベンケイガニ類の中では小さく、甲幅１cmまで。潮間帯の岩陰や藻類に隠れる。

ショウジンガニ *Guinusia dentipes*
ハサミに鮮やかな橙色の顆粒が並び、歩脚に棘をもつ。全体的に赤褐色～赤黒い。潮間帯のカニの中では大型。外海に面した潮下帯の岩の隙間。

ヤマトオサガニ *Macrophthalmus japonicus*
眼柄が非常に長いのが特徴。ヒメヤマトオサガニに似るが、第３歩脚の先端から２番目の節に毛がなく、全体的に黄色みがかる。河口の泥地に巣穴をつくる。

チゴガニ *Ilyoplax pusilla*
白いハサミと青みがかった胸部が特徴。繁殖期の雄は雌をひきつけるため「バンザイ」の求愛ダンスを一斉に行う。河口の泥地に巣穴をつくるが、巣穴から出た姿がみられるのは春から初秋。

コメツキガニ *Scopimera globosa*
甲は丸みを帯び、足は細長い。砂に含まれる微小藻類や有機物をこし取って食べ、砂粒のみ丸めて排出する。砂地の巣穴周辺には多数の砂団子がみられる。

スナガニ属の１種 *Ocypode* sp.（幼ガニ）
砂浜に巣穴を掘るスナガニの１種。四角い甲と大きな眼をもち、砂上を素早く走る。畠島ではスナガニが観察対象種であるが、近年、眼に角状突起をもつツノメガニも増えている。

クサズリガイ *Chiton kurodai*
殻は幅広く中央で稜（りょう）をなし、側域は隆起するが顆粒はなく滑らか（右下）。肉帯は細かい鱗片（りんぺん）で覆われる。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の転石裏に付着。

白浜の海岸生物

ヒザラガイ *Acanthopleura japonica*
体は楕円形で褐色～黒褐色。殻は幅広く、肉帯は大きさのそろった棘で覆われ、ざらざらとした触感。他のヒザラガイ類より大型。潮間帯中部～潮下帯の岩上。

ニシキヒザラガイ *Onithochiton hirasei*
体は細長い楕円形で、鮮やかな桃赤色に縁どられる。肉帯は赤、桃色、橙色と多様な色彩を持ち、皮革のような触感。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の転石裏に付着。

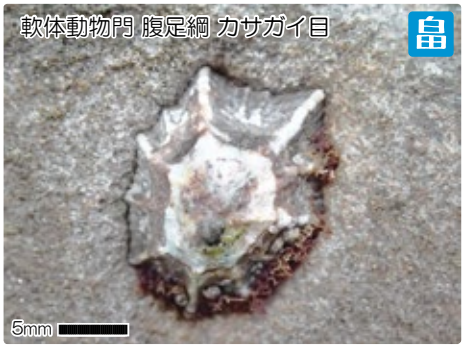
ケハダヒザラガイ *Acanthochitona defilippi*
体は円に近い楕円形で、殻は小さく、肉帯は幅広い。肉帯に９対の棘の束が並ぶ。潮間帯中～下部の潮だまりや潮下帯の転石裏に付着。

ヒメケハダヒザラガイ *Acanthochitona achates*
体は細長い楕円形。殻は小さく、肉帯はやや幅広い。肉帯に９対のよく伸びた棘の束が並ぶ。潮間帯中部～潮下帯の岩上。

ヨメガカサ *Cellana toreuma*
殻はやや平たく長楕円形。殻表に暗褐色の斑模様をもつ個体が多い。細かい顆粒からなる細い肋が放射状に走る。潮間帯中～下部の岩上。

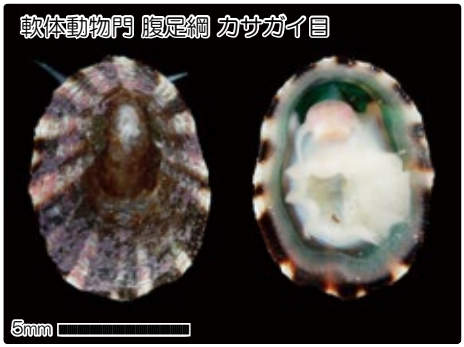
ベッコウガサ *Cellana grata*
他のカサガイ類と比べて背が高い。殻表には暗褐色の斑模様と、粗い顆粒からなる太い肋が放射状に走る。外海に面した潮間帯上部の岩上。

マツバガイ *Cellana nigrolineata*
殻は楕円形で表面は平滑。茶褐色の帯が放射状に走るものと、ジグザグの網目状のものがいる。捕食者に対して外套膜（がいとうまく）で防御反応を示す。潮間帯上～中部の岩上。

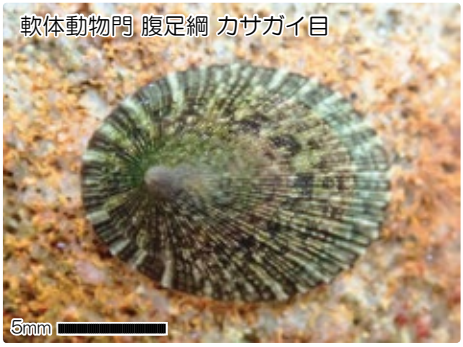


ウノアシ *Patelloida saccharina lanx*
殻は平たくほぼ左右対称で、７本の強い放射状の肋がある。殻の裏面は白。家として固定の場所をもつ。潮間帯中部の岩上。

キクコザラ *Lottia langfordi*
殻表の肋は強い。殻頂は常に褐色だが、しばしば石灰藻に覆われる。1944年に番所崎の個体を基に新種として記載。潮間帯中～下部のヒバリガイモドキなどのイガイ床上。



コモレビコガモガイ *Lottia tenuisculpta*
殻表全面に均一な太さの細い肋がある。黒地に放射状の白帯をもつ個体が多い。幼貝時に他の巻貝類に付着することがある。潮間帯中部の岩上。

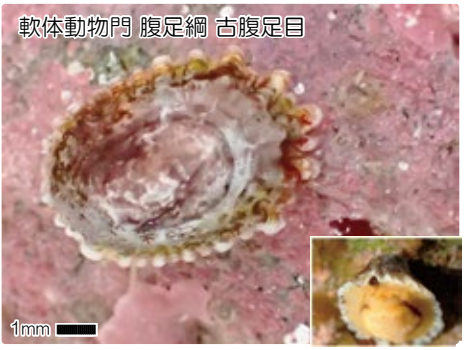


クサイロアオガイ *Nipponacmea fuscoviridis*
殻は低く楕円形で、横から見ると殻頂が前方に寄っているのがわかる。殻の裏は縁が白黒交互で、中心は濃緑色。軟体部は頭部と足部側面が白っぽい。潮間帯上部の岩上。

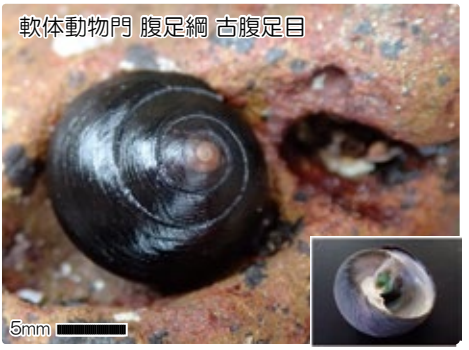
トコブシ *Haliotis diversicolor aquatilis*
通常７個前後の隆起しない孔をもつ（写真の個体はその孔から排せつ物を放出している）。殻の巻きに沿う細かく密な肋がある。潮間帯下部～潮下帯の岩上や転石上。

白浜の海岸生物

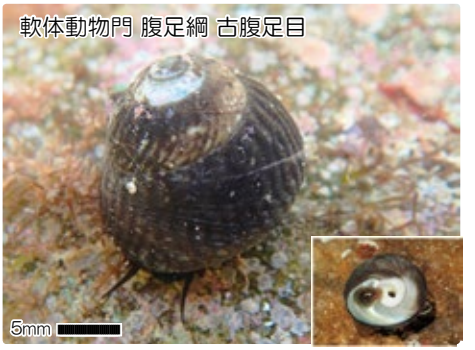
オトメガサ *Scutus sinensis*
灰～黒色の軟体部が殻を覆い、背中にわずかに殻が見える。殻は平たく前縁がくぼみ、白い。潮通しの良い潮間帯下部の転石裏に付着。



スソカケガイ *Montfortula picta*
殻は笠（かさ）形で、等間隔に走る強い放射状の肋をもつ。カサガイ類に似るが、殻前縁にわずかに切れ込みがある点で異なる（右下）。潮間帯上～中部の岩上。

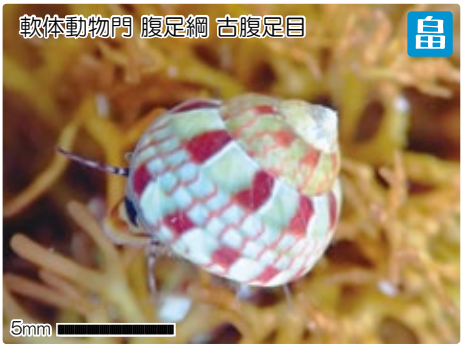


クマノコガイ *Chlorostoma xanthostigma*
殻は低い円錐形、表面は平滑で黒い。殻底は丸みを帯びて平滑で、中心の孔は開かず緑色に染まる（右下）。潮間帯中～下部の岩陰。



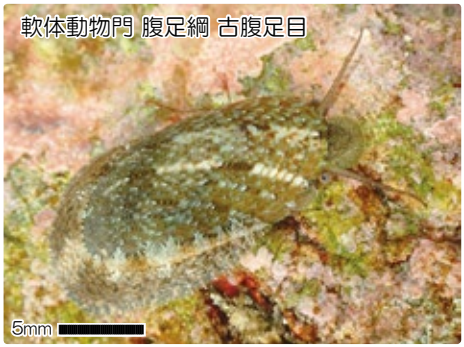
ヒメクボガイ *Omphalius nigerrimus*
殻表には斜めの肋が密に走る。殻底は平滑で黒く、中心に小さな孔が開く（右下）。老成すると殻表が磨耗し、灰白色の地が見える。外海に面した潮間帯下部～潮下帯の岩陰。

チビアシヤガイ *Fossarina picta*
コビトウラウズガイに似るが、殻口周辺の巻きが膨らみ、殻の周縁が角張らず、生息潮位がやや低い点で異なる。潮間帯中部のイワフジツボ死殻の中に群生。



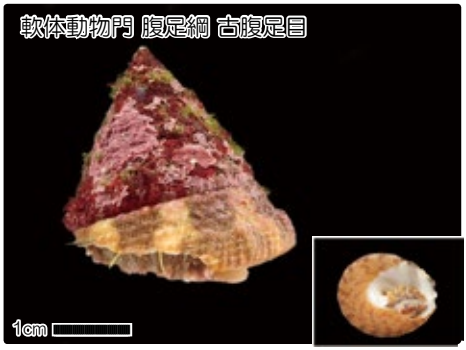
メクラガイ *Diloma suavis*
殻表は平滑で、緑色の地に赤色の格子模様が組み合わさる。波打ち際を好み、潮の満ち引きに合わせて移動する。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上。

イシダタミ *Monodonta confusa*
殻表は巻きに沿う肋があり、石畳状の顆粒が並ぶ。内湾の個体では特に顆粒が盛り上がる（右下）。殻口に明瞭な突起とくぼみをもつ。殻の色彩は多様。潮間帯中部の岩上。

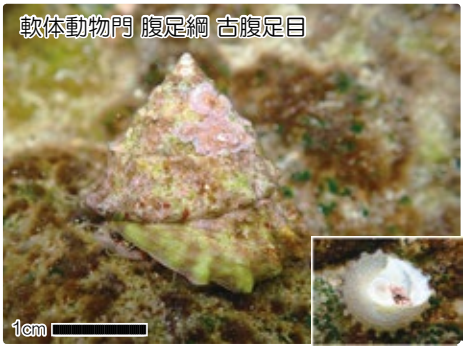


ヒラヒメアワビ *Stomatella planulata*
アワビ型の殻をもつが、アワビとは異なる系統。殻は光沢があり、色彩変異に富む。殻の裏面は真珠光沢をもつ。刺激を与えると後足部を自切する。潮間帯下部の転石裏に付着。

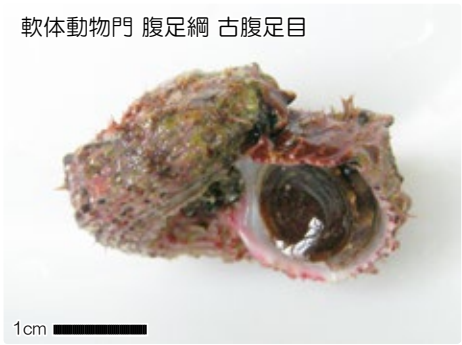
ギンタカハマ *Tectus pyramis*
殻は銀白色で大型。殻底は白色で平らだが、渦状の溝がわずかにある。幼貝は巻きに沿う突起が並び、縁は歯車状となる（右下）。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上。



ニシキウズ *Trochus maculatus*
殻は横からみるとやや膨らむ。表面は顆粒状で、白、赤褐色、暗緑色の斑模様。縁は丸く、殻底には細かい斑紋がある（右下）。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上。

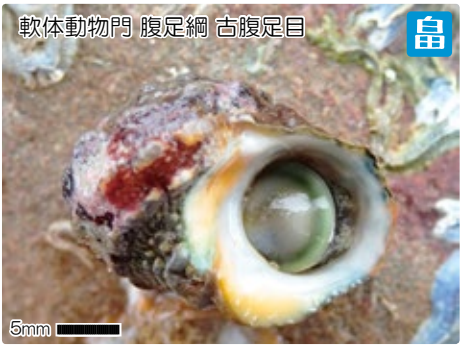


ウズイチモンジ *Trochus rota*
殻の巻きに沿う突起が並ぶ。殻底は縁が歯車状で渦状の肋が走り、やや緑色がかる（右下）。成貝はしばしば石灰藻に覆われる。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上。

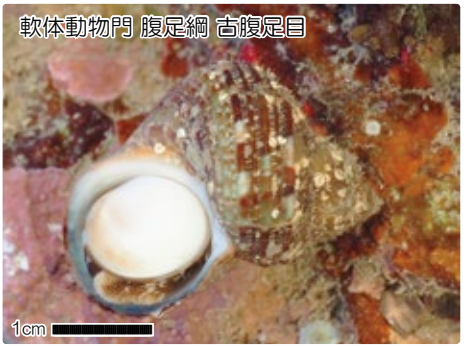


カタベガイ *Angaria neglecta*
殻は横から見ると巻きが階段状で、赤紫色。巻きに沿う突起が並び、巻きの肩部では特に大きい。殻底中心に孔が開く。潮間帯下部〜潮下帯の岩上。

白浜の海岸生物



スガイ *Lunella coreensis*
殻は低く黄褐色で、巻きに沿う丸い突起が並ぶ肋が走る。蓋は石灰質で丸い。緑藻のカイゴロモは本種の殻にのみ付着する。潮間帯の岩上。



コシダカサザエ *Turbo stenogyrum*
殻は色彩変異に富む。殻口周辺の巻きは膨らみ、巻きに沿う肋が走る。蓋は石灰質で丸く、平滑。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上。

アマオブネ *Nerita albicilla*
殻は巻きに沿う肋が走り、黒地に白斑が入る。殻口内唇に顆粒をもつが（右下）、幼貝では発達しない。潮間帯中部の岩上。

アマガイ *Nerita japonica*
アマオブネと似るが、やや小型で殻表は滑らか、殻口内唇に顆粒はない（右下）。潮間帯上部の岩上。畠島では絶滅したとされる。

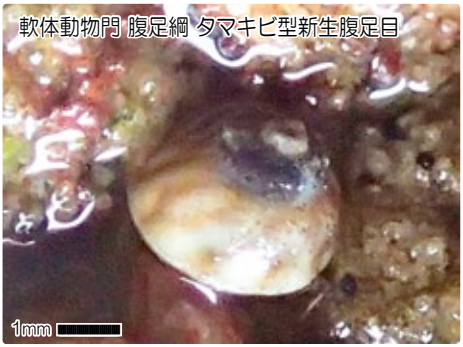
イシマキガイ *Clithon retropictus*
近縁種と同所的に分布するが、殻表面の三角模様の底辺が黒色かつ蓋がやや黄色を帯びる点で異なる。殻頂はしばしば欠ける。河口域の泥っぽい岩上など。

カヤノミカニモリ *Clypeomorus bifasciata*
殻は下膨れの紡錘（ぼうすい）形。巻きに沿った細かい肋上に顆粒が並ぶ。殻は濃褐色の個体が多い。潮間帯の岩陰などに群れることがある。

ゴマフニナ *Planaxis sulcatus*
殻は紡錘形。表面は滑らかで、巻きに沿った太い肋が走る。黒色の地に四角い白斑が入る。畠島から一度消失したが回復した。潮間帯上部の岩上。

ホソウミニナ *Batillaria cumingi*
殻は細長い円錐体で、巻きに沿った細い肋がある。個体によって弱い縦肋を持つ場合がある。殻口は外側に張り出さない。内湾の泥地。

フトヘナタリ *Cerithidea rhizophorarum*
殻は太い円錐形で、巻きに沿った肋と弱い縦肋をもつ。殻色は褐色地に黒帯をもつ個体が多い。成貝では殻頂部を失う。内湾の泥地。



コビトウラウズガイ *Peasiella habei*
殻は低く円錐形で、高さ３ mm 程度と小さい。殻の周縁は竜骨状に角張り、殻底は平らで数本の渦状の肋がある。潮間帯上部～中部の岩のくぼみ。

アラレタマキビ *Echinolittorina radiata*
殻口周辺の巻きは膨らむ。殻には巻きに沿う顆粒状の肋が走る。殻色は白～黄褐色。写真のような姿勢で炎天下の岩の熱さをしのぐ。外海に面した潮上帯～潮間帯上部の岩上。

タマキビ *Littorina brevicula*
殻口周辺の巻きは膨らむ。巻きに沿う数本の強い肋が走り、色彩は変異に富む。アラレタマキビに似るが、肋が顆粒状にならず平滑な点で異なる。潮間帯上部～中部の岩上。

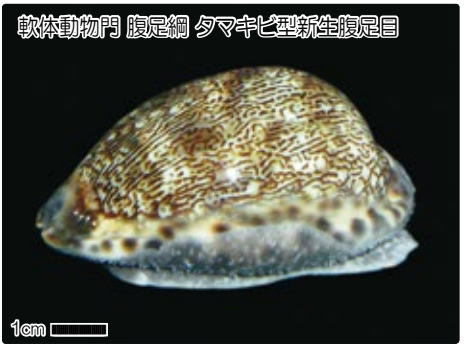
白浜の海岸生物

イボタマキビ *Nodilittorina trochoides*
他のタマキビ類に比べ、殻が縦に長い。殻口周辺の巻きに2列の大きな白い顆粒列をもつ。外海に面した潮上帯～潮間帯上部の岩上で、アラレタマキビよりもやや高い場所。

マガキガイ *Strombus luhuanus*
殻の形は毒をもつイモガイ類に似るが、殻口下端の切れ込みから目がのぞくことと、カマ状の蓋（赤褐色の爪のような部分）をもつ点で異なる。潮間帯下部～潮下帯の砂礫地。

キクスズメ *Hipponix conica*
殻は茶色で強い肋をもつ。幼貝は雄で、成長すると雌に性転換する。潮間帯下部～潮下帯の岩上にすむトコブシなどの巻貝に付着。

オオヘビガイ *Serpulorbis imbricatus*
殻表には巻きに沿う多数の強い肋が走る。巻貝には珍しい固着性で、粘液で有機物をからめとって食べる。潮間帯下部の岩上。かつて田辺湾では見られなかったが、現在は普通。



ヤクシマダカラ *Cypraea arabica asiatica*
背面は暗褐色～褐色の地に朽木様の縦縞がある。潮間帯のタカラガイ類では最大で、殻長が9 cmに達する。潮間帯下部の潮だまり～潮下帯の岩上。

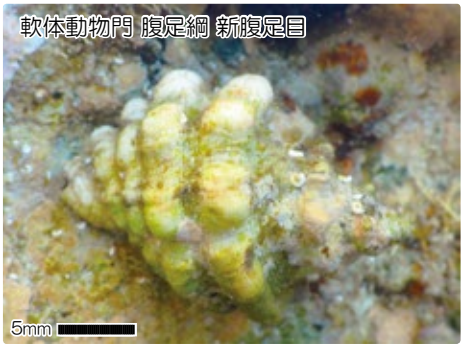
ハナマルユキ *Cypraea caputserpentis*
黒褐色の地に多くの大小の白斑がある。前後の端は青白色で、殻口周辺と歯は白色。軟体部は黒っぽいことが多い。外海に面した潮間帯の岩上。

ハナビラダカラ *Cypraea annulus*
背面は淡灰色で、橙色の明確な環状紋をもち、これが花びらのように見える。側面から腹面は白色で、殻底は平ら。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上。

ナツメモドキ *Cypraea errones*
背面に褐色点が散在し、中央に大きな褐色斑をもつ。側面から腹面は白色～淡橙色で、よく似るメダカラとは側面に斑点がない点で異なる（右下）。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上。

ウネレイシダマシ *Cronia margariticola*
殻は厚い。縦肋は太くうね状で、巻きに沿った肋は細い。殻表は茶褐色。殻口は縁が細かい波状となり、内側は紫色。腐肉食性。潮間帯下部の岩上や隙間。

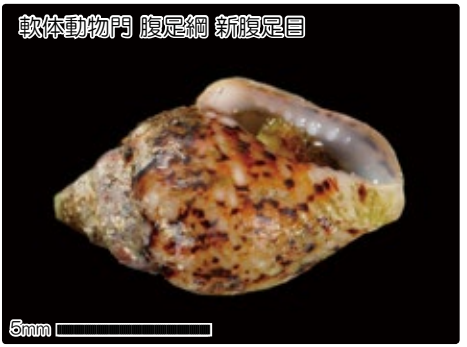
シマレイシダマシ *Morula musiva*
殻は紡錘形で、いぼ状の突起をもつ。巻きに沿った肋は茶褐色と黒褐色の交互に染まる。殻表が摩耗しても、殻口周辺に模様が残る。潮間帯中部の岩上やイガイ床上。



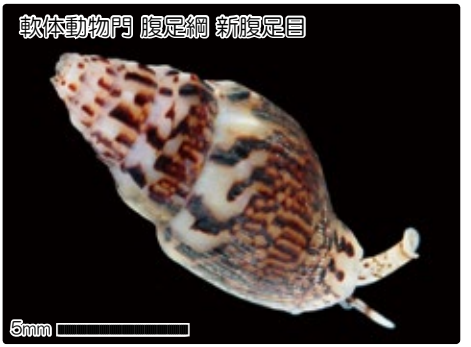
レイシガイ *Reishia bronni*
イボニシと比べ大型で、間隔の広い突起をもつ。突起はとがり形と丸形の二型が存在。殻は黄～橙色がかった白色。潮間帯下部～潮下帯の岩上。

イボニシ *Reishia clavigera*
殻は突起に覆われる。白浜には突起の丸いＰ型と（写真）、突起のとがるＣ型の２型がある。黒褐色～褐色の広い縦縞があり、縞および巻きの間は白い。潮間帯中～下部の岩上。

白浜の海岸生物



フトコロガイ *Euplica scripta*
殻は紡錘形で殻口周辺の巻きの肩が張る。白地に黒褐色のかすり状。殻口は縦に細長く、縁の内側に歯の列をもつ。潮間帯下部の海藻上や岩上、潮だまり。



ボサツガイ *Anachis misera*
殻は光沢があり、まばらな縦肋をもつ。白色の地に茶色の斑模様がある。外唇は薄く、弱い歯をもつ。潮間帯下部～潮下帯の岩上。

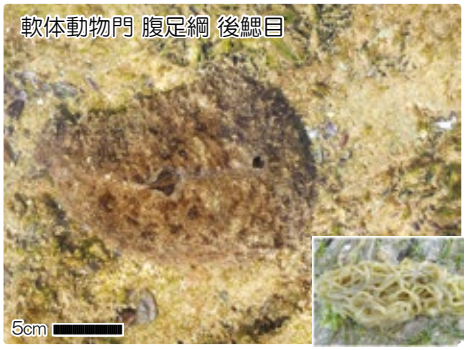
イソニナ *Japeuthria ferrea*
殻は細長く、巻きの間がくびれる。殻表は平滑で、灰緑色。個体によっては縦に走る直線状または波状の褐色帯をもつ。殻口内は紫褐色。潮間帯の転石裏に付着。

タガヤサンミナシ *Conus textile*
殻口は縦長く、うろこ状の白色班と濃褐色の波状縦縞をもつ。夜行性で、日中は砂に潜る。刺されるとヒリヒリと痛み、呼吸麻痺を引き起こす。岩場や砂地の潮間帯下部の潮だまり～潮下帯。

アメフラシ *Aplysia kurodai*
体は黒褐色の地に白色の斑点が散在。刺激すると紫色の汁を出す。ウミゾウメンと呼ばれる薄黄色～橙色の卵塊を産む。春～初夏の海藻が多い時期にみられる。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯。

ミドリアメフラシ *Aplysia oculifera*
体は緑褐色の地に、縁が黒く中心が白い小斑点を散らす。刺激すると紫色の汁を出す。春～初夏の海藻が多い時期にみられる。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯。

クロヘリアメフラシ *Aplysia parvula*
体は褐色で、背側にあるひれ状の側足などの縁が黒い。刺激すると紫色の汁を出す。春～初夏の海藻が多い時期にみられる。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯。

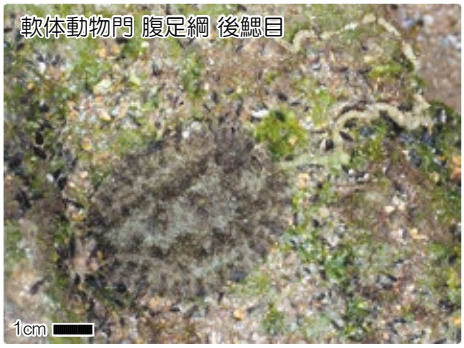


タツナミガイ *Dolabella auricularia*
体は固く、体表に多数の小突起をもつ。体色や模様は変化に富み、周囲に溶け込む。殻は波頭形。刺激すると紫色の汁を出す。卵塊は緑がかる(右下)。潮間帯下部～潮下帯の岩のくぼみなど。

アオウミウシ *Hypselodoris festiva*
鮮やかな青地に黒色と黄色の斑点が散在し、背側の正中線上に黄白色の縦帯が走る。触角は橙色。後方に橙色で縁どられた鰓をもつ。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯。

クモガタウミウシ *Platydoris speciosa*
体は平たく、硬い。背面（写真左）は褐色で目立たないが、腹面（写真右）は鮮やかな橙色の地に大小の褐色紋を散らす。潮間帯下部の岩陰や潮だまり。

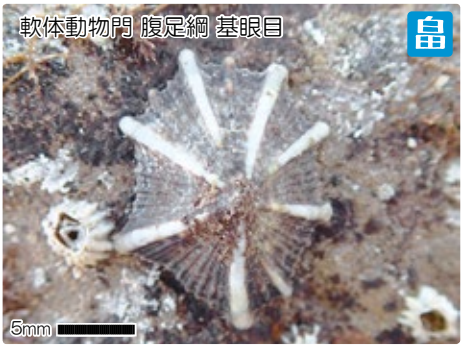
メリベウミウシ *Melibe papillosa*
体は半透明で背中に大きな突起をもつ。頭部には大きなフード状の口があり、投網のように広げて微小動物を捕える。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯。



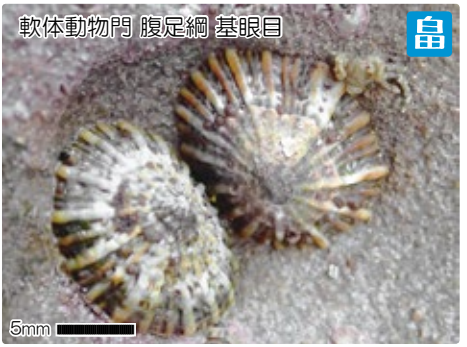
イソアワモチ *Peronia verruculata*
体は柔らかく、背中はこぶ状の突起に覆われる。腹側の体表が灰青色の個体が多い。写真のように長く伸びた紐状の糞を出す。潮間帯下部の干出した岩上。

白浜の海岸生物

ヤマトヒメアワモチ *Onchidella orientalis*
体はやや細長い小判型。体表は暗褐色で、灰色の小斑紋と顆粒状突起が多数。潮が引いた直後の岩場でよくみられる。潮間帯中部の岩上。



キクノハナガイ *Siphonaria sirius*
茶褐色の地に白色の強い放射状の肋をもつ。殻の裏は白い肋部分を除き黒色。肋の１本は肺呼吸を行うための水管溝となる。やや外海に面した潮間帯中部の岩上。



カラマツガイ *Siphonaria japonica*
殻は黄褐色で左右非対称。殻頂から明瞭な放射肋が走る。殻の裏は中央部が濃褐色。笠形の殻をもつが、カサガイ目とは異なる系統。潮間帯中部の岩上。

シロカラマツガイ *Siphonaria acmaeoides*
カラマツガイに似るが、殻は平たく、放射肋が白く肋間が黒い点で異なる。裏面中央部は白っぽいが、変異がある。潮間帯上部の浅い潮だまり。

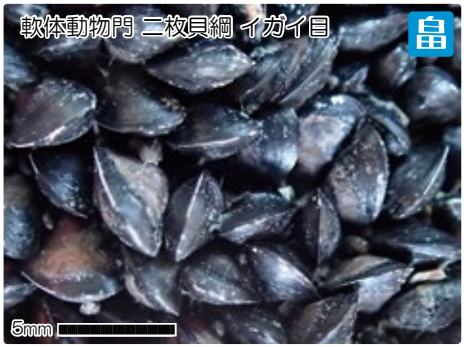
軟体動物門 二枚貝綱 フネガイ目

カリガネエガイ *Barbatia virescens*
殻は横長で後方が幅広く、中央の足糸口部がやや湾曲。殻表は細かい放射状の肋が走り、黒い殻皮で覆われる。潮間帯の岩の隙間。

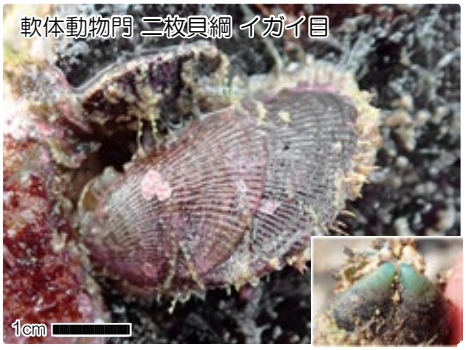
軟体動物門 二枚貝綱 イガイ目

ムラサキイガイ *Mytilus galloprovincialis*
殻はやや薄く、殻縁は丸みを帯びるが殻頂部は鋭角。殻表は平滑で黒紫色。近年減っている。潮間帯～潮下帯の岩上、ブイや係留ロープの水没部に固着。

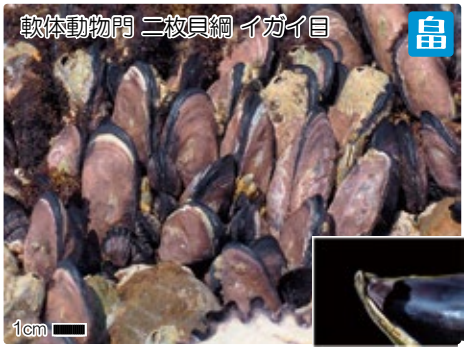
ミドリイガイ *Perna viridis*
殻は薄く平滑で、縁が鮮やかな緑色（写真中央の黒い個体はムラサキイガイ）。ムラサキイガイと対照的に近年増えている。潮間帯～潮下帯の岩上、ブイや係留ロープの水没部に固着。



クログチガイ *Xenostrobus atratus*
殻はやや薄く、黒紫色で、平滑。殻内面の殻頂部に隔板（左右の殻を仕切る小さな板状のもの）は無い。殻長１cmほどの小型種。潮間帯上～中部の岩上に群生。

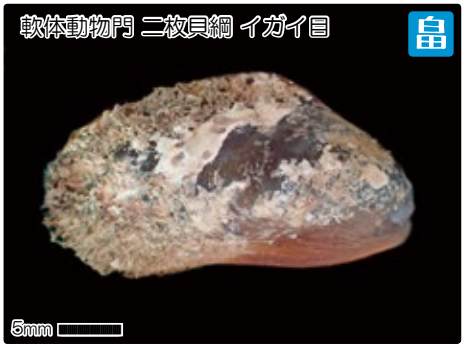


クジャクガイ *Septifer bilocularis*
殻は厚く毛が生え、殻頂から細かい放射肋が走る。殻頂部は青緑色（右下）。殻内面は白っぽく、殻頂部に白い隔板がある。潮間帯中～下部の岩陰などに群生。



ムラサキインコ *Septifer virgatus*
殻は厚く、黒紫色。殻頂部は腹側に曲がるが、変異がある。殻内面は黒っぽく、殻頂部に黒い隔板がある（右下）。外海に面した潮間帯から潮下帯の岩上に群生。

ヒバリガイモドキ *Hormomya mutabilis*
殻はやや薄く、黒茶色。殻表は細い放射肋が走る（右下）。殻内面は黒っぽく、殻頂部に隔板は無い。潮間帯から潮下帯の岩上に群生。



ヒバリガイ *Modiolus nipponicus*
殻はやや薄い。殻表は平滑で、赤褐色の部分に毛を生じる。殻内面は真珠光沢が強く、殻頂部に隔板は無い。潮間帯から潮下帯の岩上に固着。同所的な他のイガイ類と混在。

白浜の海岸生物

アコヤガイ *Pinctata martensii*
殻は平らな半円形で、薄い層を何枚も重ねたような構造。表面は緑灰色であるが、内面は真珠光沢がある。潮間帯下部～潮下帯の岩上に固着。

ハボウキガイ *Pinna bicolor*
殻表に 10 本程度の放射肋が走り、殻頂は狭くとがる。中にカクレエビが共生することがある。潮間帯下部～潮下帯の砂泥中の小石などに固着するため、殻の大部分は埋没。

マガキ *Crassostrea gigas*
殻は不定形で、殻表は薄い層を重ねたような構造。殻内面は白いチョーク層で厚く覆われる。淡水の影響がある内湾の潮間帯～潮下帯の岩場や、砂礫底に群生（カキ礁）。

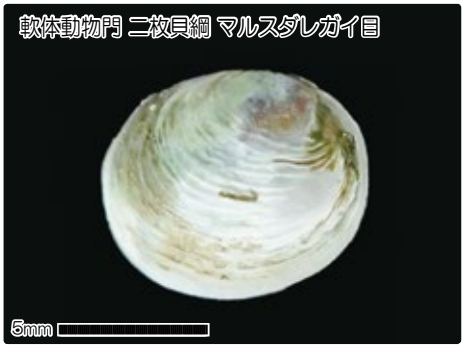
ケガキ *Saccostrea kegaki*
殻表に管状の突起をもつが、成長に伴い磨耗する。殻内面のチョーク層は発達せず黒っぽい。内湾よりの潮間帯～潮下帯の岩上にみられるが、マガキとは異なり貧栄養の場所に多い。

オハグロガキ *Saccostrea mordax*
殻の表面に突起はない。殻の縁は紫色で波打ち（お歯黒の名前の由来）、やや垂直に立ち上がる。外海に面した潮間帯中部の岩上に群生。

軟体動物門 二枚貝綱 マルスダレガイ目

ナガザル *Verticardium enode*
卵円形で、前後はほぼ対称。殻表面には、約 40 本の肋があり、肋間の溝は深い。潮間帯下部～潮下帯の砂地。台風の後などに岩場の潮間帯に漂着することがある。

イソハマグリ *Atactodea striata*
殻は亜三角形で後縁がややとがり、殻頂から同心円状の肋が広がる。畠島では絶滅したと考えられていたが、近年生きた個体が再確認された。潮間帯の砂地上に露出することがある。



セミアサリ *Claudiconcha japonica*
殻は卵形であるがしばしば不定形。右殻は左殻を抱き込むような形になることがある。不規則な同心円状の肋が広がる。軟らかい岩、サンゴ、カンザシゴカイ群落などに穿孔（せんこう）する。

ケマンガイ *Gafrarium divaricatum*
殻は厚く、膨らみは弱い。殻表は、放射肋と同心円肋が交差する荒い布目状で、濃褐色の細かい筋模様が入る。潮間帯～潮下帯の砂地上に露出することがある。

ヒョウモンダコ *Hapalochlaena fasciata*
体表は興奮時に明るい黄色に変化し、鮮やかな青色の斑紋が浮き出る。斑紋は外套膜で線状、腕で環状。唾液腺にテトロドトキシンが含まれ、咬まれると危険。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯。

サメハダホシムシ *Phascolosoma scolops*
陥入吻の前端に 15～40 列の環状に並ぶ鉤をもち、背側に黒色斑がある。体幹は淡黄白色～淡褐色で、前端部に硬い楯状組織はない。潮間帯中～下部の岩のわずかな隙間や海藻の根元など。

サビネミドリユムシ属の１種 *Anelassorhynchus* sp.
濃紅色の体幹は円筒形で皮膚乳頭に覆われ、前方に一対の剛毛がある。吻は短く淡緑色で、伸縮するがホシムシのように陥入しない。吻の付け根に口がある。転石下からみつかる。

白浜の海岸生物

アケノサシバ *Nereiphylla castanea*
いぼ足の背触糸は扁平でハート形。体は緑色。背触糸はため込んだ粘液のため赤褐色を呈するが、粘液を多量に放出すると色が薄くなる。体長 10 cm に達する。潮間帯のイガイ床上など。

オニイソメ *Eunice aphroditois*
第 8 体節以降のいぼ足背面に赤褐色の鰓をもつ。鋭い牙で咬みつくことがある。体長は通常 50 cm ～ 1 m だが、最長 3 m の記録がある。潮間帯下部～潮下帯の岩の隙間や転石下。夜行性。

ミズヒキゴカイ *Cirriformia tentaculata*
第 6 剛毛節背面に多数の副感触手があり、各体節左右に鰓糸がある。体長 15 cm に達する。砂地あるいは岩の割れ目にたまった砂に潜り、鰓管だけを外に出す。

クマノアシツキ *Acrocirrus validus*
口前葉に 1 対の副感触手、続く 4 体節に各 1 対の鰓をもつ（しばしば一部が欠損する）。体長 6 cm に達する。潮間帯下部から潮下帯の転石の下部。

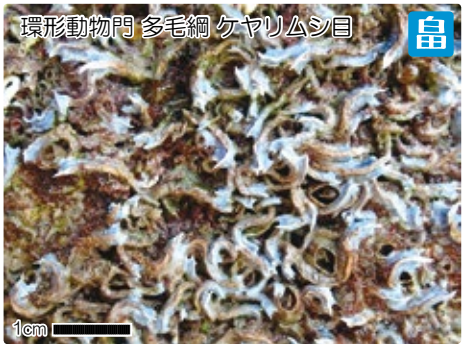
ツバサゴカイ *Chaetopterus cautus*
翼状のいぼ足が特徴。（写真は体の前方部分）。U 字型の棲管は、両端が地上に開口する(右下)。棲管内にいぼ足で水流を起こし、流れ込む有機物を粘液で絡めとる。砂地の潮間帯下部～潮下帯。

ナガオカンムリゴカイ *Idanthyrsus okudai*
長い尾部は体長の約半分。頭部の 2 列の棘毛は、外側では細長く先端が湾曲し鋸歯（きょし）をもつ。砂粒で棲管をつくり、口触手で餌をとる。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩上に固着。

チンチロフサゴカイ *Loimia verrucosa*
頭部の先に、白色に濃桃色の斑点がある触手を多数もつ。潮間帯下部～潮下帯の転石裏に、粗い砂粒や貝殻の混ざった粘液質の棲管を作る（右下）。棲管を壊されると素早く泳いで逃げる。

ケヤリムシ *Sabellastarte japonica*
頭部の鰓冠を水中に広げるが、黄白色～濃い褐色まで変異に富む。粘液と細かな砂粒で作った棲管をつくる。潮間帯下部の岩の隙間など。

カサネカンザシ *Hydroides elegans*
棲管は石灰質で白く、２本の縦すじがある。断面は円形に近い。鰓冠は褐色で、殻蓋が２重になっていることが和名の由来（右下）。内湾の石の下面や、係留ロープなどに密集。



ヤッコカンザシ *Pomatoleios kraussii*
棲管は石灰質で口付近が青く、背面が棘状に突出する。外海に面した潮下帯の岩の下面に密集。棲管の隙間は様々な小さな生き物のすみかとなる。

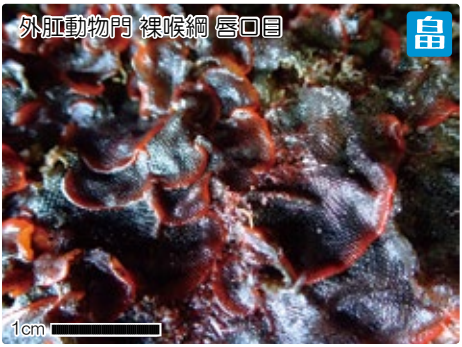
イバラカンザシ *Spirobranchus giganteus*
左右の鰓冠は渦巻き、円錐状になる。鰓冠の色は、赤、黄、橙、茶、青、白など様々。生きた造礁サンゴ上に石灰質の棲管を作るが、サンゴの成長に伴ってサンゴ骨格に埋没する。

ウズマキゴカイ *Dexiospira foraminosa*
直径２～３ mm の右巻きの渦巻き状棲管を作る。棲管は石灰質で白い。鰓冠は赤く、4 対の鰓糸からなる。殻蓋は円筒状をし、先端の内部で胚（はい）を保育。海藻、貝殻、小石などに固着。

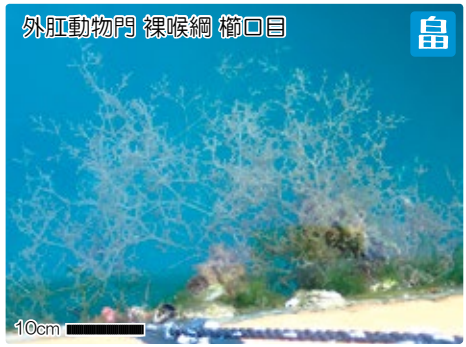
白浜の海岸生物

スズコケムシ *Barentsia discreta*
群体性で個虫は走根でつながる。個虫は全長4～5 mm程度で、柄部下方に外皮の薄い筋肉節があり、ここで柄部を動かす。触手は20～24本。潮間帯下部～潮下帯の岩石や二枚貝などに固着。

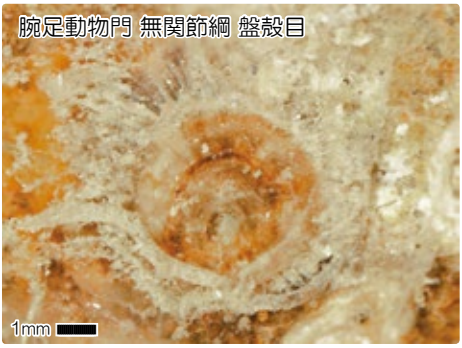
フサコケムシ *Bugula neritina*
群体は分枝して房状になり、それぞれの枝に棘をもたない個虫が2列に並ぶ。潮間帯下部～潮下帯の岩陰や、ブイや係留ロープの水没部に固着。



チゴケムシ *Watersipora subovoidea*
群体は扇状または円盤状で岩を覆い、縁がひだ状に起立する場合もある。群体は黒く、縁が赤い。虫室口の下縁が湾入し、同型の口蓋をもつ。潮間帯下部の岩陰に固着。



ホンダワラコケムシ *Zoobotryon pellucidum*
群体は半透明のキチン質の管が通常3分岐して伸び、高さ30 cmに達するものはホンダワラ類の海藻と見紛う。潮間帯下部～潮下帯の岩陰や、係留ロープおよび船底などに固着。



スズメガイダマシ *Discradisca stella*
一見カサガイ類のようだが、殻の周囲にひげ状の棘毛があること、腹側（付着側）に肉茎がある点で異なる。潮間帯中部～潮下帯の転石裏に固着。

カエデイソヤムシ *Spadella schizoptera*
全体に発達した腹部横走筋があり、体幅が広い。前方に一対の眼がある。後端が掌状に分岐した鰭は付着性をもつ。潮間帯下部～潮下帯の海藻や岩上。

ニッポンウミシダ *Oxycomanthus japonicus*
腕は最大 40 本ほどで濃黒褐色や黄褐色。腕から分枝する羽枝の先端は黄色など鮮やかな色になる。腕長 15 cm に達する。外海に面した潮下帯岩上。

オオウミシダ *Tropiometra afra*
腕は 10 本で、体は一様に黒色。腕長 20 cm に達する。外海に面した潮下帯岩上。最も浅いところでみられるウミシダ。

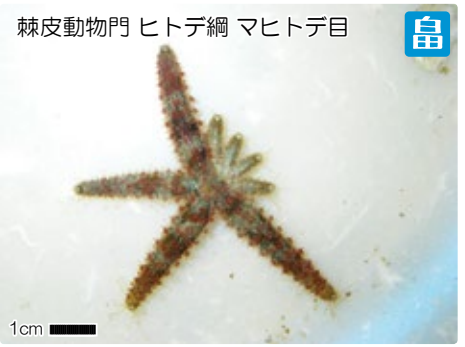
オニヒトデ *Acanthaster planci*
体表に大きな棘をもち、腕は通常 14 ～ 18 本。体の幅は 40 cm に達する。棘に毒があり、刺されると発熱し痺（しび）れや吐き気を催す。潮下帯の岩上、サンゴを食べるのでその付近。

イトマキヒトデ *Patiria pectinifera*
腕が短く、腕の間の切れ込みが浅い。青藍色に橙赤色の斑紋をもつ個体が多い。中心～腕先端は 6 cm ほど。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の転石上。

トゲイトマキヒトデ *Aquilonastra coronata*
体の中央にある肛門周辺を環状突起が囲み、棘が密生する大きな背側板が散在する。中心～腕先端は 4 cm まで。潮間帯下部～潮下帯の転石裏に付着。

ヌノメイトマキヒトデ *Aquilonastra batheri*
体色は変異に富み、緑褐色～赤褐色（右下）。トゲイトマキヒトデに似るが、肛門周辺の環状突起および背側板に密生する棘がない点で異なる。潮間帯下部～潮下帯の転石裏に付着。

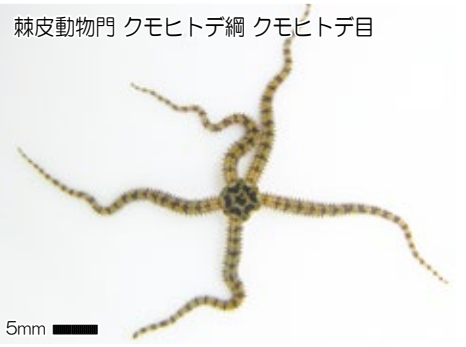
白浜の海岸生物



ヤツデヒトデ *Coscinasterias acutispina*
多くは８腕。写真は半分に分裂後、４腕を再生途中の個体。体表は棘が規則的に並び、暗緑色と暗赤色が混じる。中心～腕先端は７cmほど。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の転石上。

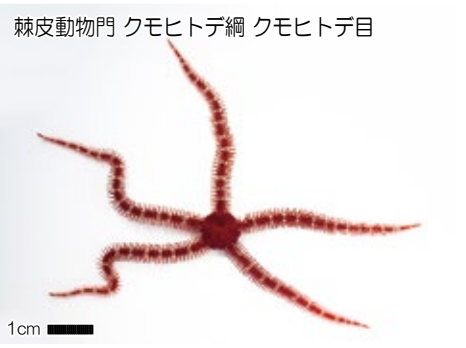
モミジガイ *Astropecten scoparius*
腕の側面の縁板に細長い棘が列をなす。岩などに付着しないモミジガイ類では、管足の先端が吸盤ではなく、とがっている。中心～腕先端は７cmほど。潮間帯下部～潮下帯の砂泥底に潜る。

ウデナガクモヒトデ *Macrophiothrix longipeda*
盤径の20倍近くに達する長い腕が特徴。体は灰褐色～灰青色。シロスジクモヒトデに似るが、腕に白色の縦線がない点で異なる。潮下帯の転石下に潜む。



チビクモヒトデ *Ophiactis savignyi*
腕は通常６本で濃淡の縞がある。分裂して増えるので、しばしば腕の長さが不ぞろいの個体がみられる。盤径は通常５mmほど。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯で、岩の隙間や転石下に潜む。

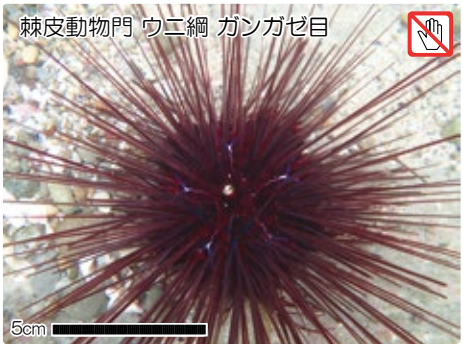
ゴマフクモヒトデ *Ophiocoma dentata*
腕に濃淡の縞がある。盤は顆粒に覆われ、濃色地に黒点の点在する個体や、赤紫色の網目模様を呈する個体がみられる。盤径は通常１cmほど。潮下帯で、岩の隙間や転石下に潜む。



アカクモヒトデ *Ophiomastix mixta*
全身が濃赤。背面の腕針が、一部根棒状になるのが特徴。時折白化した個体がみられるが、飼育し続けると赤色が戻る。盤径は通常１～２cm。潮下帯の転石下に潜む。

ニホンクモヒトデ *Ophioplocus japonicus*
中心の盤表面が細かい鱗（うろこ）で覆われるが、棘や顆粒はない。腕の背面の板は細かく割れる。盤径は通常15～20 mm。潮間帯下部や潮下帯の転石下に潜む。

ガンガゼ *Diadema setosum*
殻径の５～６倍に達する長い棘をもち、背部中央に橙色に縁どられた肛門が目立つ。殻径は通常５～９ cm。棘は折れやすく、刺さると体内に残り激しく痛む。潮下帯下部の岩陰に群れる。



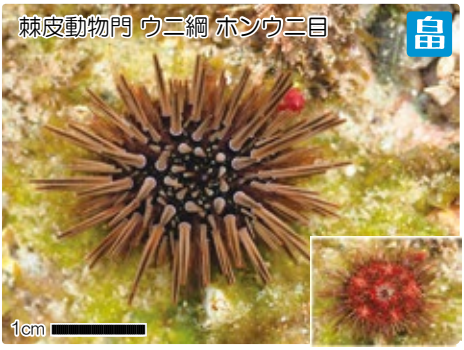
アオスジガンガゼ *Diadema savignyi*
肛門はガンガゼと異なり濃い紫色で、その周りに放射状に青い線が伸びる。殻径は通常４～７ cm。ガンガゼほど群れない。潮下帯の岩陰。

トックリガンガゼモドキ *Echinothrix calamaris*
太さが異なる２種の棘をもち、大棘は長く先端は鈍いが、小棘は短く針状。肛門付近は黒色～鮮やかな青色まで変異がある。潮下帯の岩陰。

ツマジロナガウニ *Echinometra* sp. A
殻が楕円形。棘は褐色～濃緑色で、先端が白いことが和名の由来。殻径は通常４～５ cm。潮間帯下部の潮だまりから潮下帯の岩のくぼみに隠れる。

ヒメクロナガウニ *Echinometra oblonga*
殻が楕円形。棘は一様に黒色で、狭い岩のくぼみに入りこむためしばしば磨耗する。潮間帯でみられる個体は小さい個体が多く、殻径３ cm を超えることはまれ。

白浜の海岸生物



ホンナガウニ *Echinometra mathaei*
殻が楕円形。棘の色が赤褐色～緑褐色と変異に富むが、基部から先端まで色が一様。口の周辺が赤い（右下）。潮間帯でみられる個体はやや小さい。

ムラサキウニ *Heliocidaris crassispina*
棘と殻は一様な濃紫色。岩のくぼみに隠れる方向によって、棘の長さに偏りがある。殻径は通常４～７ cm。潮間帯下部の潮だまりから潮下帯の岩の隙間やくぼみ。

タワシウニ *Echinostrephus aciculatus*
ムラサキウニに似るが、棘が細長で柔らかく、先端が白い点で異なる。殻径は通常２～３ cm。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の軟らかい岩に穴をうがち、流れてきた藻くずなどを食べる。

コシダカウニ *Mespilia globulus*
殻は膨らみ腰高で、全体的にオリーブ色。棘は短く、紅白の縞模様。体表面にしばしば貝殻や海藻などを付けて身を隠す。殻径は通常２～３ cm。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の岩側面に付着。

アカウニ *Pseudocentrotus depressus*
殻は平たく、棘は濃赤～桃色。良く似るムラサキウニとは、棘が小さく長さが体の全方位で均一である点が異なる。殻径は通常５～８ cm。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の転石裏に付着。

バフンウニ *Hemicentrotus pulcherrimus*
コシダカウニに似るが、殻が平たい点で異なる。口の周辺以外は暗緑色からオリーブ色。管足は４縦列。殻径は通常２～４ cm。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の転石裏に付着。

ラッパウニ *Toxopneustes pileolus*
毒腺をもつ叉棘（さきょく）が発達し、先端がラッパ状に広がることが和名の由来。大棘は短く目立たない。殻径 10 cm に達する。外海に面した潮下帯岩上。

シラヒゲウニ *Tripneustes gratilla*
体表は黒褐色。大棘は短くとがり、白と赤褐色が混じる。殻径 10 cm に達する。体表面にしばしば海藻などを付けて身を隠す。外海に面した潮下帯岩上。

タコノマクラ *Clypeaster japonicus*
殻は平たく、完全な放射状でない（不正形ウニ）。体表の花模様の場所から呼吸用の管足が伸びる。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯の砂泥地で、体表面に海藻や貝殻を付けて身を隠す。

ニセクロナマコ *Holothuria leucospilota*
腹面に管足が密生し、背面に三角錘状の小さないぼ足をもつ。体は黒く管足の先端は白い。体長は 30 cm ほど。刺激すると肛門から粘着性の白いキュビエ管を放出する。潮間帯下部～潮下帯の砂地。

イソナマコ *Holothuria pardalis*
体は円筒形で両端が細く、皮膚が堅い。背面は黄褐色の地で黒褐色の斑紋が 2 列に並ぶ。口部の触手は 20 本前後。体長は通常 5 ～ 15 cm。外海に面した潮間帯下部～潮下帯の転石下。

トラフナマコ *Holothuria pervicax*
腹面に管足が密生し、背面にはこぶ状で濃褐色のいぼ足が散在する。腹面は白っぽく、背面は褐色の地に濃褐色の斑紋をもつ。体長は 30 cm ほど。潮間帯下部の潮だまりや潮下帯。

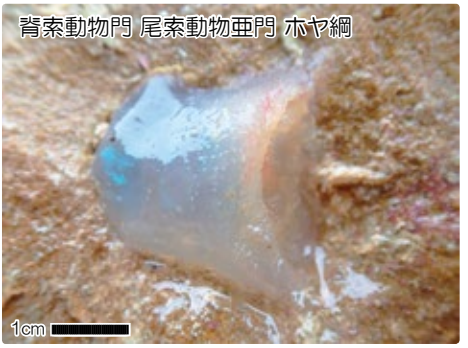
白浜の海岸生物

テツイロナマコ *Holothuria moebii*
皮膚は柔らかく濃紫～黒褐色。管足は腹面では密生するが、背面には無い。口部の触手は 20 本前後。体長は通常 10 ～ 20 cm。潮間帯下部～潮下帯の転石裏に付着。

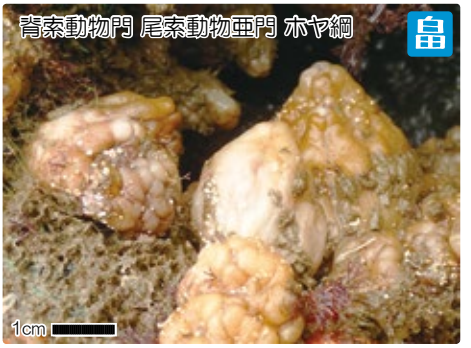
ムラサキグミモドキ *Afrocucumis africana*
体はほぼ五角柱状。体は紫色で、背面では濃く、腹面では薄い。口部の触手は 20 本前後。各歩帯に管足が 2 列並ぶ。体長は通常 3～5 cm。外海に面した潮間帯下部～潮下帯の転石裏に付着。

ムラサキクルマナマコ *Polycheira fusca*
体は円筒状で濃紫色。口部の触手は 18 本前後。体壁中にある車輪状の骨片が和名の由来（右下）。干出時は体長 10 cm ほどに縮むが、水中では伸長する。潮間帯下部の転石下に密集。

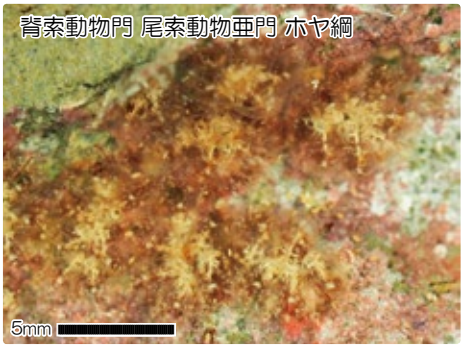
ワダツミギボシムシ *Balanoglossus carnosus*（糞塊）
体は前端部が丸く、後方は長い襟状組織に覆われ、柔らかい。体長 1 m に達する。肛門（右下）を U 字状の巣穴から出して糞塊を形成する。潮間帯下部の砂泥中。



ガマグチボヤ *Rhodosoma turcicum*
体の前端付近にがま口状の深い切れ込みが入り（写真右側）、この中に入水孔と出水孔が開く。体長 5 cm に達する。外海に面した潮間帯下部～潮下帯の転石裏に固着。



シロボヤ *Styela plicata*
体表は厚くしわがある。乳白色だが、しばしば泥や小動物が付着する。出水孔と入水孔は上部に開く。体長 5 cm に達する。内湾で潮下帯の岩の隙間、ブイや係留ロープの水没部などに固着。



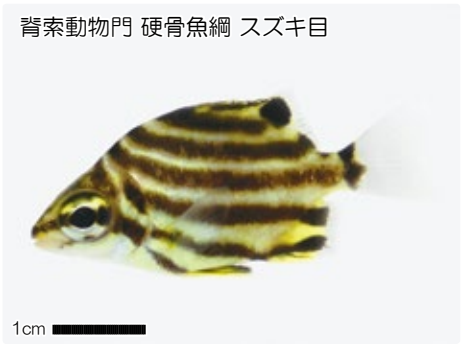
ミダレキクイタボヤ *Botryllus primigenus*
星形に並んだ褐色の個虫が透明な被嚢（ひのう）に囲まれた群体を形成する。白～薄黄色の色素細胞をもち、それらが入水孔の周りに輪状に並んだものは野外で目立つ。潮間帯下部の転石裏に固着。

ウツボ *Gymnothorax kidako*
鋭い歯があり凶暴なイメージがあるが、実際は臆病で人間が手を出さない限り襲ってくることはない。潮下帯の岩陰に隠れるが、潮間帯下部の潮だまりにも潜むことがある。

ゴンズイ *Plotosus japonicus*（幼魚）
口の周辺に黄色い長いひげをもち、体側に黄色の縦縞をもつ（右下）。初夏に幼魚がゴンズイ玉と呼ばれる塊状の群れをつくる。背びれと胸びれに鋭い棘があり、毒があるため刺されると危険。

ハオコゼ *Hypodytes rubripinnis*
体は赤から茶褐色で、全長 10 cm までと小さい。よく目立つ背びれの棘に毒をもつ。アマモ場や岩場周辺。転石下にも隠れ、踏んだりすると危険。

メジナ *Girella punctata*（幼魚）
体は灰色がかり成長すると目が青くなる。成魚は外海に面した岩場周辺に生息するが、春から夏にかけて幼魚が潮だまりで見られる。関西ではグレと呼ばれる。



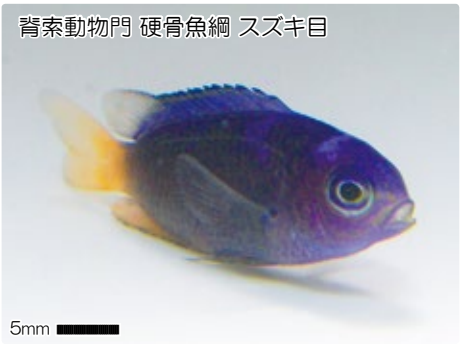
カゴカキダイ *Microcanthus strigatus*（幼魚）
黄色の体に黒い縦縞（頭を上、尾を下にみて縦走する縞）が特徴。岩場周辺で群れをつくり、春頃に潮だまりで幼魚がみられる。日本海にも生息する温帯性種。

白浜の海岸生物

ギンユゴイ *Kuhlia mugil*（幼魚）
体は銀色で、５本の黒色帯がある尾びれが特徴。岩場やサンゴ群落の周辺で群れをつくって泳ぎ、幼魚は春から秋にかけて潮だまりでみられる。

オヤビッチャ *Abudefduf vaigiensis*（幼魚）
体に５本の黒い横縞があり、背部は黄色い個体が多い。岩場やサンゴ群落の周辺で群れる。夏から秋にかけて潮だまりで泳ぐ幼魚がみられる。

シマスズメダイ *Abudefduf sordidus*（幼魚）
体側に比較的薄い横縞がある。他のスズメダイ類の幼魚と群れるが、背びれの後ろの背側に黒斑がある点で見分けられる。幼魚は夏から秋に潮だまりでみられる。



ソラスズメダイ *Pomacentrus coelestis*（幼魚）
鮮やかな青色の体が特徴で、幼魚の尾びれは黄色い。危険を感じると岩の隙間や下に隠れる。幼魚は夏から秋にかけてサンゴ群落や岩場周辺、潮だまりでみられる。

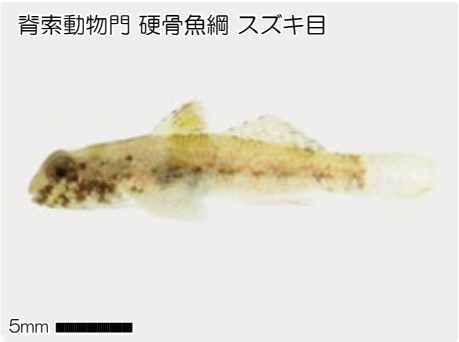
ヘビギンポ *Enneapterygius etheostomus*
背びれが３つに分かれる。体色は変異が大きいが、暗色帯がある個体が多い。繁殖期の雄は尾柄部と尾びれ以外は黒くなる。岩場の潮だまりや潮下帯。

カエルウオ *Istiblennius enosimae*
体に不規則な横帯をもち、眼の上に１本の皮弁と、頭部正中線上にトサカ状の皮弁がある。危険を感じると干出部をぴょんぴょん跳ねて逃げる。岩場の潮だまり。

背索動物門 硬骨魚綱 スズキ目

クモギンポ *Omobranchus loxozonus*
体は黄色みがかり、眼の後ろに青緑色斑がある。頭部に皮弁はない。小さな隙間に身を隠し、顔だけを出して様子を伺う。オオヘビガイの死殻をよく利用する。岩場の潮だまり。

背索動物門 硬骨魚綱 スズキ目



クモハゼ *Bathygobius fuscus*（幼魚）
第１背びれが黄色く縁どられる。体の後方に黒色斑が並ぶ（幼魚では不明瞭）。体に鮮やかな水色の斑点が出ることがある。左右の腹びれは癒合し吸盤状。潮だまりの岩陰や転石下に隠れる。

背索動物門 硬骨魚綱 スズキ目

アゴハゼ *Chaenogobius annularis*
ドロメに似るが、胸びれと尾びれに黒色点が並び尾びれが半透明である点で異なる（右下）。左右の腹びれは癒合し吸盤状。岩場の潮だまりにみられ、春から夏にかけては浮遊する稚魚がみられる。

背索動物門 硬骨魚綱 スズキ目

ドロメ *Chaenogobius gulosus*
アゴハゼに似るが、胸びれと尾びれに黒色点がなく尾びれが白く縁どられる点で異なる。左右の腹びれは癒合し吸盤状。稚魚は岩場の潮だまりなどで浮遊する（右下）。

背索動物門 硬骨魚綱 スズキ目

トビハゼ *Periophthalmus modestus*
眼が頭頂部に突出し、左右が接する。干出した干潟の上を胸びれではい回り、潮が満ちると岸辺へ移動する。逃避する際は尾びれで跳ねる。左右の腹びれは癒合し吸盤状。内湾や河口の泥地。

背索動物門 硬骨魚綱 フグ目

クサフグ *Takifugu niphobles*
暗緑色で背側に白点が散在し、胸びれの後ろの大きな黒斑が特徴。よく砂に潜り、足のくるぶしほどの水深でも泳ぎ回る。毒があり食べてはいけない。内湾や淡水の影響がある場所。